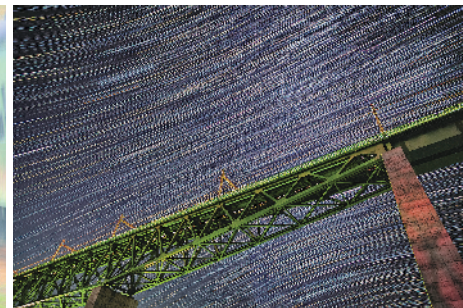
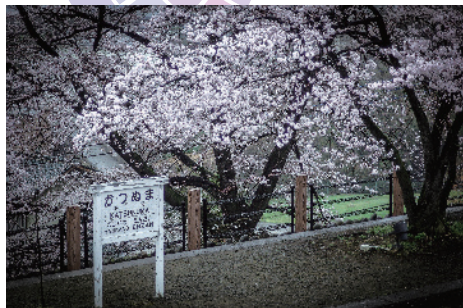


TAMRON

株主通信

第71期 報告書



2017年1月1日



2017年12月31日

新製品紹介

優れた光学性能と機動力を高める軽量・コンパクトボディのF/4望遠ズームレンズ

70-210mm F/4 Di VC USD (Model A034) 4月発売予定

Model A034は、ズーム全域で高い光学性能を実現。さらに、クラス最大*)を誇る最大撮影倍率1:3.1や、剛性が高く安定した操作性を叶える「インナーズーム機構」を採用しています。また、高速・高精度なAFと強力な手ブレ補正効果の両立を可能にするデュアルMPUを採用し、快適な撮影をサポート。防汚コートや簡易防滴と望遠ズームレンズで求められるあらゆる機能を搭載。写真表現の限界を広げる、高画質で寄れる望遠ズームレンズが誕生しました。

*) 35mm判フルサイズ対応のデジタル一眼レフカメラ用70-200mm F/4 クラスのレンズにおいて(2018年1月現在。タムロン調べ)



NEW

タムロン初の35mmフルサイズミラーレス一眼カメラ対応大口径標準ズームレンズ

28-75mm F/2.8 Di III RXD (Model A036) 本年中頃発売予定

Model A036は、高画質と大口径ならではの美しいボケ味を両立した、こだわりの描写性能を持つ表現力豊かなレンズです。製品設計の工夫により、ワイド端での最短撮影距離は0.19mを達成。これまでにないダイナミックな広角表現を楽しむことができます。また、質量550g、全長117.8mmと、大口径標準ズームクラスとして軽量・コンパクトなサイズを実現。さらに、AF駆動には静粛性に優れた、高速・精密なステッピングモーターユニット「RXD (Rapid eXtra-silent stepping Drive)」を搭載し、動画撮影にも適しています。高性能かつより快適な撮影が楽しめる機能も充実した実用性の高い1本です。



NEW

Contents

新製品紹介	1	連結財務ハイライト	9-10
株主の皆様へ	2	連結財務諸表	11
特集/中期経営方針	3-4	会社情報	12
トピックス	5-6	フォトコンテスト開催報告	13
セグメント別事業の概況	7-8	タムロンのものづくり	14

株主の皆様へ

過去最高の売上総利益率、増収かつ大幅増益を達成いたしました。



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第71期(2017年1月1日~2017年12月31日)の営業概要について、ご報告申し上げます。

当期における市場環境は、一眼レフタイプの減少はありましたが、ミラーレス等のノンフレックスタイプが大幅増となったことにより、レンズ交換式カメラ合計では前期比プラスに転じました。交換レンズも同様に微増となり、2012年をピークにカメラ・レンズともに減少が継続していましたが、下げ止まりが見られました。レンズ一体型カメラも微増となり、監視カメラ市場の安定成長、車載カメラ市場の高成長は継続しました。

このような状況の下、当社グループの当期における経営成績は、円安による為替のプラス影響もあったこと等により、売上高は604億96百万円(前期比1.0%増)となり、自社ブランド交換レンズの新製品投入効果等により売上総利益率が過去最高となりました。また、営業経費の削減により、営業利益は42億46百万円(前期比79.8%増)、経常利益は41億円(前期比43.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は28億38百万円(前期比91.5%増)と、増収かつ大幅な増益となり、収益性の改善が図られた1年となりました。

配当金について 第71期の期末配当金につきましては、1株当たり普通配当金25円とさせていただきます。これにより、既にお支払済みの中間配当金25円と合わせ、当期の1株当たり年間配当金は50円となり、配当性向は45.7%となりました。

次期の見通し 自社ブランド交換レンズの新製品の積極投入や、成長市場である監視やFA、車載、ドローン等の分野での売上拡大を図り、2期連続増収増益を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年3月

代表取締役社長
鯨坂 司郎

TAMRON NOW

特集 中期経営方針

変革テーマ 当社では経営方針として6つの「変革テーマ」を掲げ、中長期成長を実現する事業基盤強化を図っています。

Q 変革テーマへの取り組み状況について教えてください。

主な取り組み内容とその成果についてご紹介します。

変革テーマ

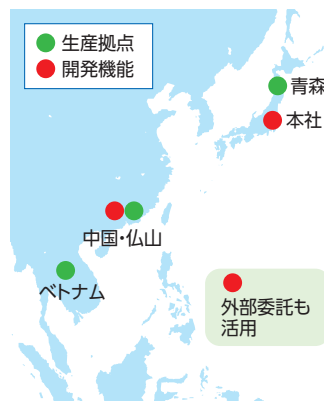
- ① マーケティング力、営業力の強化
- ② 顧客感動を得られる商品創り
- ③ 販売・生産・開発のグローバル化
- ④ 開発体制の再構築
- ⑤ 新規事業の育成強化
- ⑥ 企業体質の改善

●「販売・生産・開発のグローバル化」「開発体制の再構築」により、生産・開発の3極体制を構築

生産面では2017年にはベトナム工場の営業黒字化を達成し、日本、中国、ベトナムでの世界3極生産体制が強化されました。

開発面についても、これまで日本で開発を行っていましたが、中国工場に開発機能を構築し、2017年は中国開発機種種の量産も開始しました。日本、中国、また外部委託の活用と、多様な開発体制が構築できました。

なお、同時に、自社ブランド交換レンズでは2017年は従来比で約倍増の新製品投入を実現しており、開発L/T短縮等の開発効率の向上も図られています。



●「新規事業の育成強化」により、モジュールまで技術領域拡大、ドローン市場参入

従来のレンズユニット開発からモジュール化まで技術領域を広げ、また新たな市場として2017年にはドローン市場向けの製品出荷も開始しており、事業分野の拡大が図られました。

また、医療分野向けでも試作を実施しています。

●「企業体質の改善」により、組織をスリム化、ガバナンス体制を改善

現状の経営環境・事業規模等を考慮した効率的な事業運営体制とすべく、2016年に対し、本部クラスは25%減となる組織のスリム化・集約化を図りました。

ガバナンス面では、指名・報酬に係る任意の委員会の設置や、外国人や女性役員を選任、独立性の高い社外取締役の複数名選任等、取締役会のスリム化を図るとともに、その構成の多様化を図っています。

また、役員報酬体系の見直しを実施し、株主の皆様と利益・リスクを共有し、中長期的な企業価値増大への意識向上を目的とした業績連動型株式報酬も導入しました。

まだまだ、道半ばですが、着実に進捗しており、さらに進展させていきます。

中期経営計画(2018年~2020年)

変革テーマの実現とともに、2020年中期経営計画の達成を目指します。

Q 全体のポイントを教えてください。

2020年の売上高は2017年比で年平均成長率6%の720億円、営業利益は2017年比で約1.5倍となる66億円であり、過去10年間での最高益を目指します。収益性と資本効率の向上を図る計画となります。

なお、初年度となる2018年は売上高630億円(前期比4.1%増)、営業利益48億円(同13.0%増)を計画しています。

また、過去の中期経営計画の未達継続を反省し、今回より中期経営計画を従来のローリング形式から3ヶ年固定として管理・評価することとし、達成確度の向上を図っていきます。

<2020年計画数値>

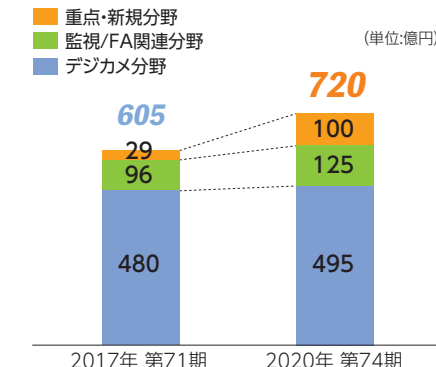
	2017年 (第71期)	2020年 (第74期)
売上高	605 億円	720 億円
営業利益	42 億円	66 億円
営業利益率	7.0%	9.2%
ROE	5.8%	9.0%以上

Q 分野別にはどのように考えていますか。

- デジタルカメラ関連の売上構成比を80%から60%台へ
- 重点・新規分野の売上高を約100億円に

成熟市場である中核事業は収益性向上を図り、安定成長の産業向けで競争優位性を保ちながら、重点分野での売上成長を実現させていく計画です。

分野別の基本方針は下記ようになります。



<分野別基本方針>

デジタルカメラ分野	成熟市場	大きな売上成長は前提とせず、収益性向上を最優先
監視/FA関連分野	安定成長市場	競争力の維持・確保、産業向けでの裾野拡大
重点分野 ドローン/車載	高成長市場	積極的なリソース投入による事業規模拡大フェーズ 各重点分野での地位確立
新規分野		協業・M&A等も含めた新規事業候補の創出フェーズ 2021年以降の本格的な売上成長を見据えた確実な仕込み

新製品3機種発売!

18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028)

世界初[※]、18-400mmをカバーする超望遠高倍率ズームレンズ。最新の光学設計とカム構造など技術を結集



※) デジタル一眼レフカメラ用交換レンズとして (2017年5月現在、タムロン調べ)。

SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A032)

クラストップレベルの高性能・高画質を達成した大口径標準ズームレンズ

逆光時の撮影にも強い手ブレ補正5段を達成



100-400mm F/4.5-6.3 Di VC USD (Model A035)

高画質と機動性を追求した超望遠ズームレンズ

「デュアルMPU」採用で優れたAF追従性を実現



「EISAアワード」2機種同時受賞! タムロンレンズは12年連続受賞の快挙を達成!!

SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD G2 (Model A022) が「EISA DSLRズームレンズ 2017-2018」を、18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) が「EISA フォト・イノベーション 2017-2018」を同時受賞しました。Model A022は「TIPAアワード2017 / BEST DSLR TELEPHOTO ZOOM LENS」受賞と合わせ、二冠達成に。Model B028はタムロン初の「フォト・イノベーション」部門受賞となりました。



Model A022



Model B028



「デジタルカメラグランプリ2018」において 総合金賞・技術賞、金賞を受賞!

18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) が、デジタル一眼用交換レンズにて最高位の「総合金賞<交換レンズ/デジタル一眼>」及び「技術賞」をダブル受賞。さらに、SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A032) が、交換レンズ<サードパーティー/フルサイズ一眼用>部門の「金賞」を同時に受賞しました。Model B028は「EISA フォト・イノベーション 2017-2018」に続く受賞となります。



Model B028



Model A032



2017

7月
July

特機関連

1/1.2型センサー対応 5メガピクセル φ29mm小型サイズ マシンビジョン用単焦点レンズシリーズ (Model M112FM08 / M112FM35 / M112FM50 / M112FM75) を発売



写真関連

18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) を発売

特機関連

3メガピクセル対応のバリオールレンズ 1/2.7型 2.8-13mm F/1.4 (Model M13V/G2813R) を発売



写真関連

SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A032) を発売

8月
August

出展

「Automation India 2017」にマシンビジョン用レンズを出展

受賞

SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD G2 (Model A022)、18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) の2機種が「EISAアワード」を同時受賞

9月
September

出展

「Traffic Infra Tech Expo 2017」に CCTVレンズを出展

受賞

「デジタルカメラグランプリ2018」にて 18-400mm F/3.5-6.3 Di II VC HLD (Model B028) が「総合金賞」と「技術賞」をダブル受賞、SP 24-70mm F/2.8 Di VC USD G2 (Model A032) が「金賞」を受賞

10月
October

特機関連

シャッターレス遠赤外カメラモジュールを開発

写真関連

100-400mm F/4.5-6.3 Di VC USD (Model A035) を発売

11月
November

出展

「国際画像機器展 2017」出展

12月
December

中国・仏山工場が設立から20周年

当社グループの最大の生産拠点である中国・仏山工場(タムロン光学仏山有限公司)が、2017年に設立20周年を迎えました。

中国・仏山工場は1997年、将来の生産量増・コスト対応力強化を見据え、当時としては珍しい日本独資で設立した工場です。当社グループは2000年以降に急成長を果たしましたが、マザー工場である青森3工場とともに、当工場はピーク時には約6,000名規模でその実現を支えてきました。

そして、近年では自動化・省力化設備の導入や業務改善による工数削減・省人化を図り、生産性の向上を推進してきました。

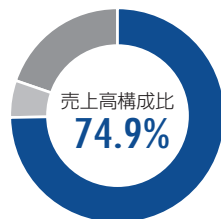
今後は、引き続き生産性の向上に励むとともに開発体制を構築・充実させ、開発機能も兼ね備えた量産工場として、当社グループのさらなる飛躍を生産・開発の両面から支えていきます。



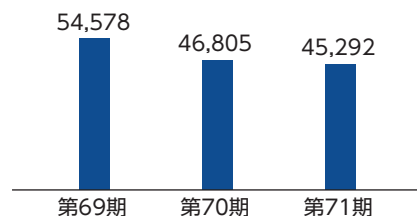
写真関連事業

OEMは減収となりましたが、自社ブランド交換レンズは年間6機種の新製品を投入した効果等により、米国、中国、日本を中心に売上を伸ばし、増収となりました。自社ブランドの新製品は、2月に大口径望遠ズームレンズSP 70-200mm F/2.8 VC USD G2 (A025)、3月に超広角ズームレンズ10-24mm VC HLD (B023)、7月に超望遠高倍率ズームレンズ18-400mm VC HLD (B028)、8月に大口径標準ズームレンズSP 24-70mm F/2.8 VC USD G2 (A032)、11月に超望遠ズームレンズ100-400mm VC USD (A035)等を発売いたしました。なお、当社レンズはEISAアワード12年連続受賞をはじめ国内外で高い評価を得ることもできました。

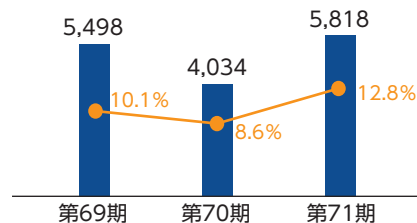
このような結果、写真関連事業の売上高は452億92百万円(前期比3.2%減)と減収となりましたが、営業利益は自社ブランドの増収及び利益率改善により、58億18百万円(前期比44.2%増)と大幅増益となりました。



売上高 (百万円)



営業利益(百万円)／営業利益率(%)

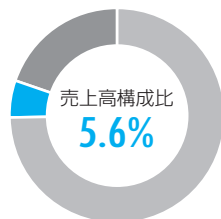


レンズ関連事業

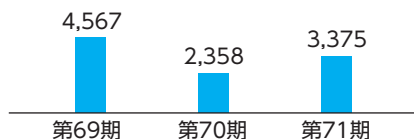
コンパクトデジタルカメラ用レンズは市場の大幅縮小が継続しておりますが、2016年の熊本地震の影響からの反動増等もあり、当社においても販売数量の大幅増加に伴い増収となりました。

また、新たな事業分野として注力してきましたドローン市場向けにおいても、下半期から製品出荷を開始する等、新規分野への参入も果たしました。

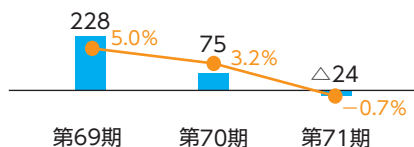
このような結果、レンズ関連事業の売上高は33億75百万円(前期比43.2%増)と増収となりましたが、新規分野参入に伴う初期コストや先行投資等により、営業損失24百万円(前期は営業利益75百万円)と減益となりました。



売上高 (百万円)



営業利益(百万円)／営業利益率(%)

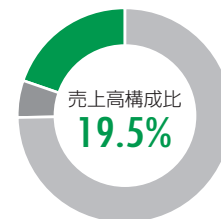


特機関連事業

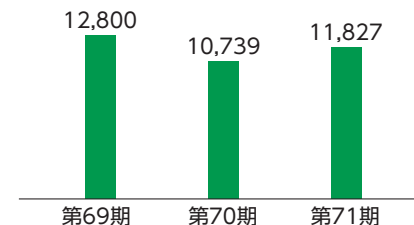
監視カメラ用レンズは海外メーカーとの競争環境は依然として厳しい状況が続いていますが、先進国カメラメーカー向けの高付加価値製品を中心に売上を伸ばしました。

また、車載カメラ用レンズも高い市場成長を背景に増収となり、好調を維持いたしました。

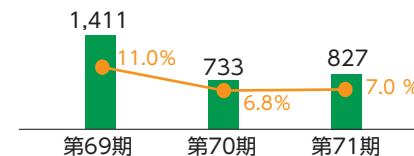
このような結果、特機関連事業の売上高は118億27百万円(前期比10.1%増)、営業利益は8億27百万円(前期比12.9%増)と、2ケタの増収増益となりました。



売上高 (百万円)



営業利益(百万円)／営業利益率(%)



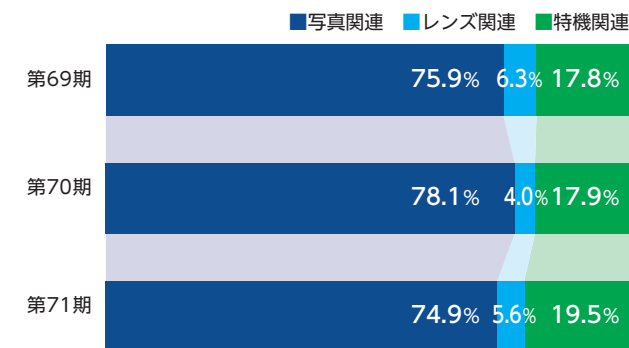
セグメント別業績の推移

(百万円)

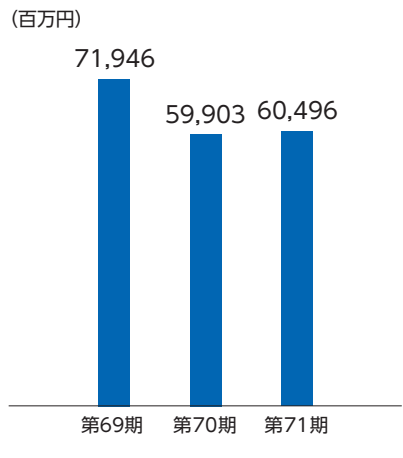
	第69期	第70期	第71期	
写真関連	売上高	54,578	46,805	45,292
	セグメント利益	5,498	4,034	5,818
レンズ関連	売上高	4,567	2,358	3,375
	セグメント利益または損失(△)	228	75	△24
特機関連	売上高	12,800	10,739	11,827
	セグメント利益	1,411	733	827
セグメント利益の調整額	△ 2,584	△ 2,482	△ 2,376	
連結営業利益	4,554	2,361	4,246	

※セグメント利益の調整額は、当社の総務、経理等の本社部門に係わる配賦不能営業費用等です。

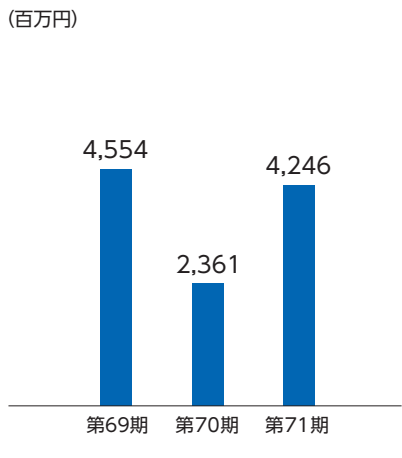
連結売上高構成比率の推移



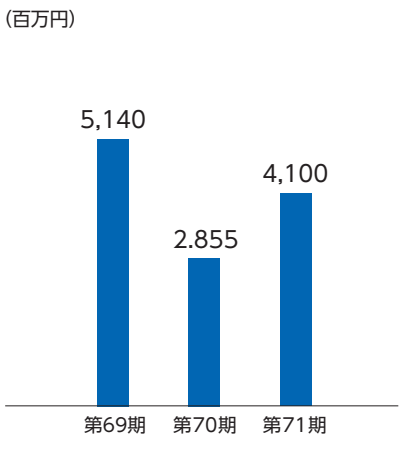
売上高 前期比 **↑1.0%**



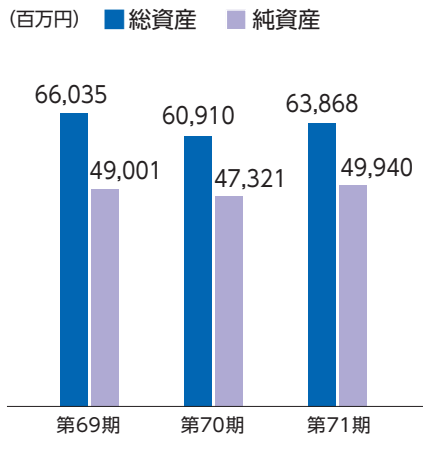
営業利益 前期比 **↑79.8%**



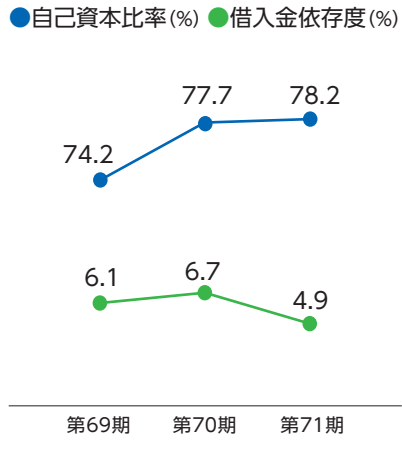
経常利益 前期比 **↑43.6%**



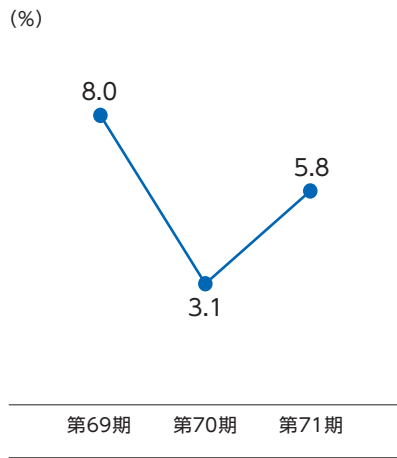
総資産・純資産



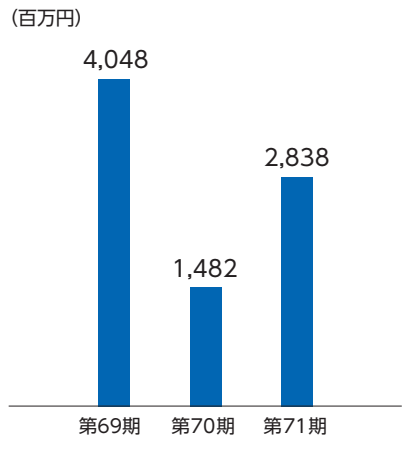
自己資本比率 / 借入金依存度



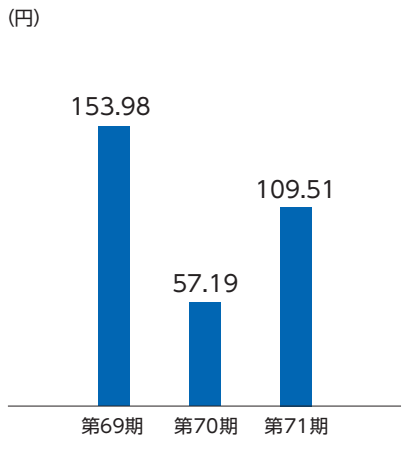
ROE(自己資本当期純利益率)



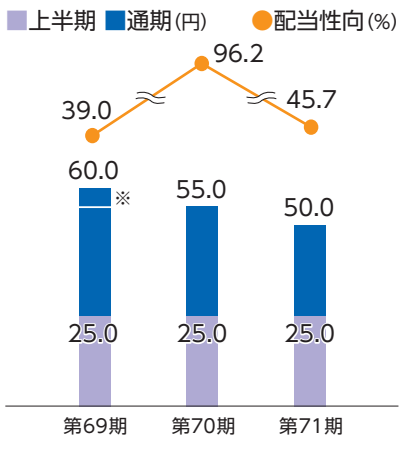
親会社株主に帰属する当期純利益 前期比 **↑91.5%**



1株当たり当期純利益

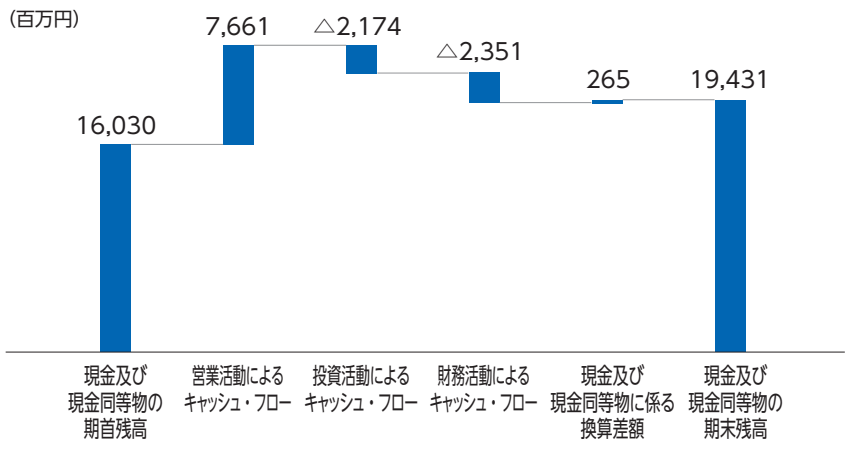


1株当たり配当金 / 配当性向

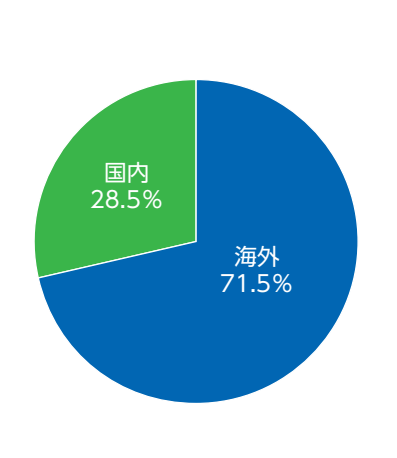


※記念配当5円含む

キャッシュ・フロー (第71期)



海外売上高比率 (第71期)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2017年12月31日現在)	前期 (2016年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	45,392	41,590
固定資産	18,476	19,320
資産合計	63,868	60,910
負債の部		
流動負債	11,931	11,388
固定負債	1,996	2,200
負債合計	13,928	13,589
純資産の部		
株主資本	45,829	44,416
その他の包括利益累計額	4,110	2,905
純資産合計	49,940	47,321
負債純資産合計	63,868	60,910

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2017年1月1日から 2017年12月31日まで)	前期 (2016年1月1日から 2016年12月31日まで)
売上高	60,496	59,903
売上原価	39,899	41,001
売上総利益	20,596	18,901
販売費及び一般管理費	16,350	16,539
営業利益	4,246	2,361
営業外収益	332	709
営業外費用	478	215
経常利益	4,100	2,855
特別利益	122	-
特別損失	-	113
税金等調整前当期純利益	4,222	2,742
法人税等	1,383	1,260
親会社株主に帰属する当期純利益	2,838	1,482

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (2017年1月1日から 2017年12月31日まで)	前期 (2016年1月1日から 2016年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,661	6,537
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,174	△2,540
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,351	△1,524
現金及び現金同等物に係る換算差額	265	△635
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,401	1,837
現金及び現金同等物の期首残高	16,030	14,192
現金及び現金同等物の期末残高	19,431	16,030

Point

流動資産

現金及び預金が34億1百万円、受取手形及び売掛金が6億42百万円増加したこと等により、流動資産は前期末に比べて38億2百万円増加しました。

流動負債

短期借入金が6億50百万円減少した一方、買掛金が6億7百万円、未払費用が2億83百万円増加したこと等により、流動負債は前期末に比べて5億43百万円増加しました。

純資産

利益剰余金が14億12百万円、その他有価証券評価差額金が3億48百万円、為替換算調整勘定が7億38百万円増加したこと等により、純資産は前期末に比べて26億18百万円増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が42億22百万円、減価償却費が35億62百万円となった一方、売上債権の増加額が3億67百万円となったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローは76億61百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が23億90百万円となったこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローは21億74百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出が7億66百万円、配当金の支払額が14億27百万円あったこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは23億51百万円の支出となりました。

会社概要

商号 株式会社タムロン
 創業 1950年11月1日
 設立 1952年10月27日
 本社 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
 資本金 69億23百万円
 従業員数 4,640名(連結)

役員

2018年3月28日現在

代表取締役社長 鯨坂 司郎
 取締役副社長 桜庭 省吾
 取締役副社長 阿保 正行
 専務取締役 川鍋 宏
 常務取締役 増成 弘治
 常務取締役 北爪 泰樹
 取締役 大塚 博司
 取締役 張 勝海
 取締役 大谷 真人
 取締役 岡安 朋英
 取締役 佐藤 勇一※
 取締役 片桐 春美※
 常勤監査役 土屋 次男
 常勤監査役 並木 孝行※
 監査役 利根 忠博※
 監査役 西本 恭彦※

注1. ※印の取締役は社外取締役、監査役は社外監査役であります。
 2. 当社は、取締役 佐藤 勇一、取締役 片桐 春美及び監査役 並木 孝行を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届け出ています。

株式の状況

発行可能株式総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 25,950,000株
 単元株式数 100株
 株主数 4,465名 ※単元未満除く

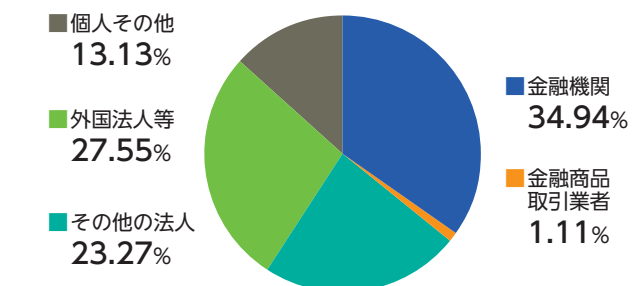
大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
株式会社ニューウェル	4,898	18.87
ソニー株式会社	3,129	12.06
株式会社埼玉りそな銀行	1,122	4.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	792	3.05
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NVI01	763	2.94
HAITONG INTERNATIONAL SECURITIES COMPANY LIMITED 700700	752	2.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	670	2.58
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION-CLIENT ACCOUNT	632	2.43
日本生命保険相互会社	580	2.23
GOVERNMENT OF NORWAY	562	2.16

注. ソニー株式会社の持株数3,129千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニー株式会社が指図権を留保しております。

株式所有者別分布

※単元未満除く



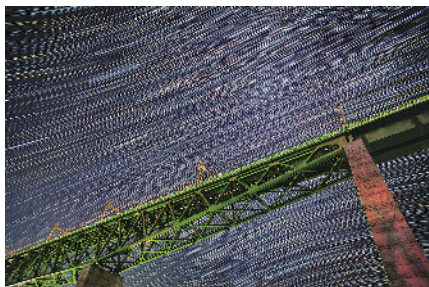


フォトコンテスト開催報告

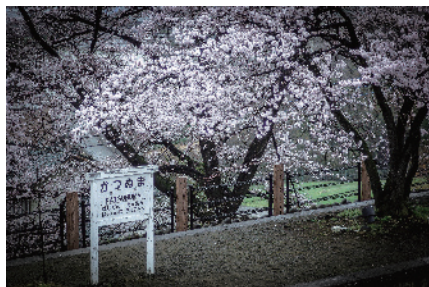
第10回 タムロン鉄道風景コンテスト 私の好きな鉄道風景ベストショット

当社は鉄道のまち大宮(さいたま市)に本社を置く企業として、さいたま市、さいたま市教育委員会、さいたま商工会議所のご後援をいただき、地域の活性化と鉄道文化の振興に貢献することを目的として「タムロン鉄道風景コンテスト」を開催しています。

今回は応募人数1,523名、応募総作品数5,809点と、渾身の作品を数多くご応募いただきました。第10回開催を記念して入賞者数を拡大、鉄道写真家 広田尚敬氏と、フォトライター「鉄子」として人気の矢野直美氏により厳正な審査が行われ、全93名の方が入賞されました。



一般の部 大賞受賞作品
「時の流れに」 竹端 榮 様



小・中・高校生の部 大賞受賞作品
「勝沼の桜」 岡 優成 様

第14回 タムロン・マクロレンズフォトコンテスト



グランプリ 受賞作品
「嗚呼！夏休み〜」 藤元 麻未 様

マクロレンズフォトコンテストは、マクロレンズのPR及び普及を目的に2004年から毎年開催しているものです。このコンテストの特徴は、当社のマクロレンズはもちろんのこと、マクロレンズであればメーカーを問わず、旧モデルも含めて広く作品を募集していることにあります。分野はネイチャー部門とノンジャンル部門を設定しています。

プリント作品及びネットによるご応募の合計で、応募人数1,493名、応募総作品数3,854点と、今回もたくさんのご応募をいただきました。審査にあたっては、ネイチャーの部は石井孝親氏に、ノンジャンルの部は岡本洋子氏に行っていたが、両氏の厳正なる審査の結果、全29名の方が入賞されました。

タムロンのものづくり

VIRTUAL TOUR CAMERA LENS MANUFACTURING 一眼レフ用レンズができるまで

<http://www.tamron.co.jp/monozukuri/>

金属加工編

タムロンの一眼レフ用ズームレンズは、約250個もの部品を使用しています。研磨やコーティングを経てレンズを仕上げる「レンズ加工」、プラスチック材料を金型で射出する「成形」、アルミダイキャストを削り出す「金属加工」の3工程で部品を製造します。組立工程では、サブ工程で手ブレ補正機構、AF用ドライブ機構、絞り機構などをユニット化し、メイン工程で各ユニットとレンズ群がひとつの鏡枠に組み込まれます。各工程で各種の検査を繰り返し、調整を行い、組立を完了します。今回は、金属加工工程についてご紹介します。

工程概要



NC旋盤

はじめに調達したアルミダイキャストをNC旋盤で削る。



金属研削

NC旋盤で素材の表面を削り、設計の要求精度に合わせこむ。

アニール

部品の溝を切り出す前に、溝切り後の形状変化を防ぐため、熱処理を行う。

溝切り

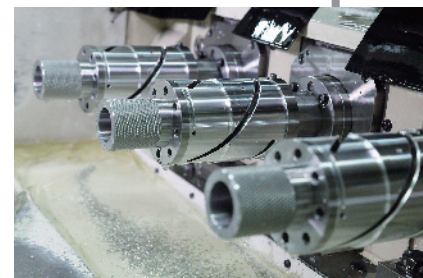
必要な穴や溝を入れる加工を行う。



測定

各種加工形状を精密に測定し、各部品は組立工程へ進められる。

組立工程へ



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年 12月31日 期末配当 毎年 12月31日 中間配当 毎年 6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) ※ 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ http://www.tamron.co.jp

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <http://www.tamron.co.jp>

■ IR情報関連に関するお問い合わせ：経営企画室

TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282 e-mail: kabushiki@tamron.co.jp

コーポレートサイトのご紹介

当社コーポレートサイトでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご活用ください。

主な掲載コンテンツ

- 企業情報
- 製品一覧
- IR情報
- CSR情報
- 採用情報
- サポート・ダウンロード

コーポレートサイト

URL <http://www.tamron.co.jp>



タムロン フォトサイト (写真レンズ用フォトサイト)

URL <http://www.tamron.jp>



UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



本冊子は環境保全のため、
植物油インキで印刷しています。